

IBM DB2 Alphablox



トラブルシューティングおよびサポート

バージョン 8.4

IBM DB2 Alphablox



トラブルシューティングおよびサポート

バージョン 8.4

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、15 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM DB2 Alphablox for Linux, UNIX and Windows (製品番号 5724-L14) バージョン 8 リリース 4 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

Copyright © 1996 - 2006 Alphablox Corporation. All rights reserved.

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GC18-9608-01
IBM DB2 Alphablox
Troubleshooting and Support
Version 8.4

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.3

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

第 1 章 アプリケーションのトラブルシューティング	1
JSP ファイルのエラー	1
コンパイル・エラー	1
実行時エラー	1
JSP エラー・ページ	1
Blox タグの動作	2
Blox タグ変更のテスト	2
一般的な Blox タグ・エラー	2
taglib ディレクティブの組み込みを忘れた場合	2
タグまたはタグ属性の大文字小文字が違った場合	3
必要な引用符を忘れた場合	3
必要なタグ属性を組み込むのを忘れた場合	4
無効なデータ・ソースを使用した場合	4
ページを更新してもコードの変更が反映されない場合	4
新しいセッションでロードされたページでもコード変更が反映されない場合	4
Blox デバッグ・タグ	5
ErrorBlox の使用	6
DB2 Alphablox コンソール・メッセージ	6
第 2 章 データ接続のトラブルシューティング	7
認識されないコマンド 10075 (Unrecognized command 10075)	7
例外が検出されない	7

プロバイダーが見つかりません (Provider cannot be found)	8
必要な権限をクライアントが保持していません (A required privilege is not held by the client)	9
ログオン失敗: ユーザー名を認識できないか、またはパスワードが間違っています (Logon failure: unknown user name or bad password)	9
java.library.path に ODBOBridge がありません (No ODBOBridge in java.library.path)	10

第 3 章 サーバーのトラブルシューティング	11
DB2 Alphablox をサービスとして開始する場合に生じるエラー 1100003	11
サーバーの異常終了	11
サーバーのハング	11
スレッド・ダンプの使用	12

第 4 章 サポート	13
IBM への連絡	13
製品情報	13

特記事項	15
商標	17

索引	19
-----------	-----------

第 1 章 アプリケーションのトラブルシューティング

アプリケーションのトラブルシューティングは、アプリケーション開発者にとって最も難易度の高い作業になることがあります。この章では、一般的に生じるいくつかのアプリケーション開発問題のトラブルシューティングに関する、ヒントおよび技法を紹介します。

JSP ファイルのエラー

JavaServer ページでの作業は、標準的な HTML ページでの作業よりも複雑になります。JSP ページを初めて実行する場合、ページを表示する前に、ページをコンパイルする必要があります。コンパイル時およびページの実行時に、コンパイル・エラーや実行時エラーが生じる可能性があります。また、JSP カスタム・タグ・ライブラリーや Java™ コードを使用すると、トラブルシューティングはさらに複雑なものになります。Java および JSP ファイルのトラブルシューティングの詳細は、適切な資料またはオンライン・リソースを参照してください。以下の節では、エラー・タイプ、タグ変更の処理方法、および DB2® Alphablox アプリケーションでの作業時にしばしば生じる他の問題について、簡単に説明しています。

コンパイル・エラー

JSP ページのコンパイル時に、必要な言語構文に従っていないコードに起因するエラーが生じる場合があります。そのようなエラーが生じる場合、Java コンパイラーがそのエラーを指摘するので、エラーを検出して修正することは通常は容易です。大抵は、エラー・メッセージが役立ち、それを参考に直ちに問題の原因に到達できます。JSP ページでエラー・ページが参照される場合でも、コンパイル・エラーがあれば、そのページはコンパイルされていないので呼び出すことはできません。

実行時エラー

実行時エラーは、コードが正しくコンパイルされても、予想された方法で実行されない場合に生じます。DB2 Alphablox アプリケーションでは、このエラーは多種多様な理由（たとえば、DataBlox で接続できない、実行時にスクリプトレットが例外をスローするなど）で生じることがあります。実行時エラーのときにスローされた例外は、問題のある JSP ページにエラー・ページ参照がある場合に、カスタム・エラー・ページに取り込んで表示することができます。カスタム・エラー・ページがない場合、標準の JSP エラー・メッセージが表示されます。

JSP エラー・ページ

JSP ページがカスタム・エラー・ページを参照しており、例外がスローされる実行時エラーが生じる場合、カスタム・エラー・ページでは、そのエラー・ページを処理し、カスタマイズされたビューで例外を表示できます。生じる可能性のある実行時エラーを処理するカスタム・エラー・ページをアプリケーションに組み込むことは最善の方法です。カスタム・エラー・ページの詳細を学習するには、「開発者用ガイド」の『エラー処理 (Error Handling)』のセクションを参照してください。ここ

には、簡単なカスタム・エラー・ページを作成する方法を記述する作業が示されています。また、カスタム・エラー・ページの作成と使用のヒントについて、適切な JSP 資料も参照してください。

Blox タグの動作

JSP カスタム・タグは、HTML タグと似ていますが、動作は異なります。Blox タグ内のどのコードも、ページを初めてロードするときだけに解釈されます。そのため、タグ内に含まれたタグやスクリプトレットを変更しても、Blox タグには特定のセッション有効範囲があるため、再ロード時には無視されます。

Blox がインスタンス化される際に、外部タグは内部タグの前に解釈されます。そのため、PresentBlox タグ内に DataBlox タグまたは他のタグがネストされている場合、まず PresentBlox コンテナが作成されてから、ネストされた Blox コンテナの作成が行われます。

Blox タグ変更のテスト

Blox タグ内でページ変更をテストするために、以下の方法を使用できます。

- ブラウザーを閉じ、新しいブラウザー・セッションでページを再ロードします。ページを再コンパイルする必要があります。
- DB2 Alphablox への Telnet セッションを開き、次のサーバー・コンソール・コマンドを入力してセッション番号を入手します。

```
show session
```

次に、以下のコマンドを入力してセッションを強制終了します (十分に注意して、自分のセッションだけを強制終了するようにします)。

```
kill session sessionID
```

ここで *sessionID* は、セッションの番号です。その後、ブラウザー・ウィンドウを最新表示します。ここで、ページをもう一度コンパイルする必要があります。

一般的な Blox タグ・エラー

次のリストには、Blox タグ・ライブラリーを処理するときに生じやすい、最も頻繁に生じるエラーが示されています。下記の例外メッセージでは、最初の行だけが示されています。スタック・トレースは含まれません。

taglib ディレクティブの組み込みを忘れた場合

JSP ページの先頭に、必要な taglib ディレクティブを配置することを忘れる場合、Blox タグはまったく認識されません。残りのページはロードされますが、taglib ディレクティブがないため、HTML エlementとテキストしか表示されません。

DB2 Alphablox タグ・ライブラリーには、6 つのタグ・ライブラリーがあります。必要なタグ・ライブラリーの taglib ディレクティブを含めるようにしてください。

タグ・ライブラリー	説明	JSP taglib ディレクティブ
Blox タグ・ライブラリー	データ・アクセス、データ表示、および分析インフラストラクチャー用のコア Blox を追加するタグ。	<%@ taglib uri="bloxtld" prefix="blox"%>
Blox UI タグ・ライブラリー	Blox のユーザー・インターフェースに対して Blox のプロパティでは不可能な変更を加えたり、カスタム分析機能を追加したりするためのタグ。	<%@ taglib uri="bloxuitld" prefix="bloxui"%>
Blox Form タグ・ライブラリー	HTML フォームに似たユーザー・インターフェースを JSP に追加し、ページのリフレッシュなしにフォームをサーバー・サイドのコンポーネント、またはページ上の他のフォーム・コンポーネントにリンクするためのタグ。	<%@ taglib uri="bloxformtld" prefix="bloxform"%>
Blox Logic タグ・ライブラリー	ビジネス・ロジック Blox (TimeSchemaBlox、MDBQueryBlox、および MemberSecurityBlox) を追加するタグ。	<%@ taglib uri="bloxlogictld" prefix="bloxlogic"%>
Blox Report タグ・ライブラリー	リレーショナル・レポートを作成するために、ReportBlox や、それをサポートする Blox を追加するタグ。	<%@ taglib uri="bloxreporttld" prefix="bloxreport"%>
Blox Portlet タグ・ライブラリー	Blox または Blox UI コンポーネントでポートレット・リンクとアクション・リンクを簡単に作成するためのタグ。	<%@ taglib uri="bloxportlettld" prefix="bloxportlet"%>

タグまたはタグ属性の大文字小文字が違った場合

大文字小文字およびスペルの誤りは、コンパイル・エラーになります。このような場合、JSP コンパイラーは、無効なタグまたはタグ属性が使用されたことを示す例外をスローします。たとえば、dataSourceName を誤って datasourceName とスペルした場合、例外には、次の行を含むメッセージが表示されます。

```
org.apache.jasper.compiler.CompileException:
  C:\%alphanblox\webapps\MyTests\example.jsp(20,1) Attribute dataSourceName
  invalid according to the specified TLD
```

このメッセージには行番号も示されることに注意してください。

必要な引用符を忘れた場合

タグ属性で、次のように、タグ属性値の前後に必要な引用符が欠落している場合、dataSourceName=QCC-Essbase"

JSP コンパイラー例外メッセージに、次のようなメッセージが示されます。

```
org.apache.jasper.compiler.ParseException:  
C:\alphablox\webapps\MyTests\example.jsp(21,17)  
Attribute value should be quoted
```

どの属性で引用符が欠落しているかは示されていませんが、21 行目で生じていることは分かります。

必要なタグ属性を組み込むのを忘れた場合

必要なタグ属性を誤って忘れた場合、例外エラーが生じます。たとえば、DataBlox タグで `dataSourceName` を忘れると、このメッセージが生成されます。

```
javax.servlet.ServletException: Required property 'dataSourceName'  
of Blox 'CommonPresentBlox_data' does not have a value
```

無効なデータ・ソースを使用した場合

存在しないデータ・ソースかつづりを誤ったデータ・ソースを指定した場合、次のような実行時例外が表示されます。

```
javax.servlet.ServletException: Cannot find datasource: 'CC-Essbase'
```

データ・ソースのスペルが正しいと思われる場合、DB2 Alphablox 管理ページのデータ・ソース定義を確認してください。作成することを忘れていたり、削除してしまった可能性があります。

ページを更新してもコードの変更が反映されない場合

前述のように、タグ内の Blox タグおよび JSP ステートメントは、ページが初めてロードされるときにだけ解釈されるものです。予想されるタグの動作と、タグ内でのコード変更を十分にテストする方法については、前述の 2 ページの『Blox タグの動作』を参照してください。

新しいセッションでロードされたページでもコード変更が反映されない場合

この問題は特に厄介なものになることがあります。キャッシュに入れられたコンパイル済み Java クラス・ファイルが、キャッシュから自動的に除去されない場合があります。このような状態や、他のすべてが失敗しているような場合は、これらのファイルを削除してから、サーバーを再始動してみてください。

DB2 Alphablox 構成によっては、これらのキャッシュに入れられた Java クラス・ファイルは、次のように、別のディレクトリーに存在することがあります。

IBM® WebSphere® サーバー:

```
/Websphere/AppServer/temp/<nodeName>/<serverName>/  
  <enterpriseAppName>/<appName>
```

Apache Tomcat アプリケーション・サーバーを使用した DB2 Alphablox:

```
/alphablox/appserver/work/
```

BEA WebLogic:

```
<applicationDocBase>/WEB-INF/  
  _tmp_war_<serverName>_<appName>/jsp_servlet
```

サーバーをシャットダウンしてから、キャッシュに入れられた JSP ファイルを保管するディレクトリーを開き、このフォルダー内のすべてのファイルを削除します。その後、サーバーを再始動します。これで、JSP ページの新しいコピーがコンパイルされます (ただし、例外がスローされない場合です)。

Blox デバッグ・タグ

問題のトラブルシューティングに役立つため、JSP ファイルに Blox デバッグ・タグを追加できます。このタグを使用するには、JSP ページに次の行を組み込みます。

```
<blox:debug/>
```

JSP ページ上で Blox と共に組み込むと、有用なデバッグ情報が (Telnet セッションではなく) システム・コンソールに送信されます。ページ上でこのタグが出現したらずちに、システム・コンソールは、属性やプロパティーの設定を含む Blox タグの情報をリストし始めます。この情報は、プロパティーおよび属性に指定した値を DB2 Alphablox が解釈する方法を確認するのに役立つことがあります。

次に示すのは、JSP ページに Blox デバッグ・タグが含まれる場合に、システム・コンソールに示されるデバッグ情報のサンプルをリストしたものです。

```
-> Starting Blox Tag:
    com.alphablox.server.tags.simple.miscTags.DebugTag
    Blox Tag Lib version 1.0 loaded
<- Ending Blox Tag: com.alphablox.server.tags.simple.miscTags.DebugTag
-> Starting Blox Tag: com.alphablox.server.tags.simple.createTags.PresentTag
  - Attribute Id = CommonPresentBlox
  - Attribute DividerLocation = .5
  - Attribute Height = 450
  - Attribute Width = 650
  - Attribute SplitPane = true
    Creating Blox for CommonPresentBlox
  - Set property on blox CommonPresentBlox: dividerLocation = .5
  - Set property on blox CommonPresentBlox: height = 450
  - Set property on blox CommonPresentBlox: splitPane = true
  - Set property on blox CommonPresentBlox: width = 650
-> Starting Blox Tag:
    com.alphablox.server.tags.simple.createTags.DataTag
  - Attribute SelectableSlicerDimensions = 'All Locations'
  - Attribute Query = <ROW ('All Products') <CHILD 'All
    Products' <COLUMN ('All Time Periods') <CHILD 'All Time
    Periods' <PAGE (Measures) Sales !
  - Attribute DataSourceName = QCC-Essbase
    Creating Blox for CommonPresentBlox_data
  - Set property on blox CommonPresentBlox_data: dataSourceName =
    QCC-Essbase
  - Set property on blox CommonPresentBlox_data:
    selectableSlicerDimensions = 'All Locations'
  - Set property on blox CommonPresentBlox_data: query = <ROW
    ('All Products') <CHILD 'All Products' <COLUMN ('All Time
    Periods') <CHILD 'All Time Periods' <PAGE (Measures) Sales!
    Found Blox in session context for CommonPresentBlox
<- Ending Blox Tag: com.alphablox.server.tags.simple.createTags.DataTag
-> Starting Blox Tag: com.alphablox.server.tags.simple.createTags.GridTag
  - Attribute BandingEnabled = true
  - Attribute DefaultCellFormat = #,###
    Found Blox in session context for CommonPresentBlox
  - Set property on blox CommonPresentBlox_grid: bandingEnabled = true
  - Set property on blox
    CommonPresentBlox_grid:defaultCellFormat = #,###
<- Ending Blox Tag: com.alphablox.server.tags.simple.createTags.GridTag
```

```
-> Starting Blox Tag: com.alphablox.server.tags.simple.createTags.ChartTag
- Attribute ChartType = Bar
  Found Blox in session context for CommonPresentBlox
- Set property on blox CommonPresentBlox_chart: chartType = Bar
<- Ending Blox Tag: com.alphablox.server.tags.simple.createTags.ChartTag
<- Ending Blox Tag: com.alphablox.server.tags.simple.createTags.PresentTag
```

ErrorBlox の使用

より優れたエラー・レポートを作成するには、1 ページの『JSP エラー・ページ』の説明どおり、JSP ページごとにエラー処理ページを指定しなければなりません。Relational Reporting では、スローされたもののキャッチされていない例外を ErrorBlox がキャッチし、Cascading Style Sheet を使用して詳細を HTML 表に出力します。Blox Report Tag Library のための以下の taglib ディレクティブが指定されている場合、JSP ファイルで ErrorBlox を使用できます。

```
<%@ taglib uri="bloxreporttld" prefix="bloxreport" %>
```

または、以下に示す import ステートメント com.alphablox.blox.ErrorBlox が指定されている場合、使用できます。

```
<%@ page import="com.alphablox.blox.ErrorBlox" %>
```

ReportBlox に関連した ErrorBlox とトラブルシューティングのヒントの詳細は、「*Relational Reporting 開発者用ガイド*」の『開発およびトラブルシューティングのヒント』のセクションを参照してください。

DB2 Alphablox コンソール・メッセージ

DB2 Alphablox システムおよび Telnet コンソールは、JSP ファイルで生じた問題のデバッグに役立ちます。サーバー・コンソールは、サービス、ユーザー、セッション、および履歴についての情報を含むシステム・プロパティを表示するために使用できます。

DB2 Alphablox のデフォルトのメッセージ・レベルは INFO です。この場合、管理者のアクションは必要とされない小さなシステム・イベントを表示します。デバッグの目的で、メッセージ・レベルを DEBUG に設定できます。この場合、デバッグ情報がシステム・コンソールに送信されます。

DB2 Alphablox コンソール・コマンドおよびメッセージの詳細は、「*管理者用ガイド*」を参照してください。

第 2 章 データ接続のトラブルシューティング

このセクションでは、一般的なデータ接続エラー、疑われる原因、および問題の訂正方法について説明しています。

認識されないコマンド 10075 (Unrecognized command 10075)

DB2 OLAP Server™ または Hyperion Essbase への接続時に生じるエラー「認識されないコマンド 10075 (unrecognized command 10075)」は、通常、使用している DB2 Alphablox Essbase ブリッジまたはクライアントとサーバーとの同期が取れていないことが原因で生じます。

例えば、DB2 Alphablox 6.5 ブリッジ (DB2 OLAP Server v8.1 または Hyperion Essbase v6.5 用) を使用していて、DB2 OLAP Server v7.1 または Hyperion Essbase v6.1 サーバーに接続しようとする、このエラーが出るようになります。DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase クライアント、または DB2 Alphablox Essbase ブリッジのバージョンを、サーバーと同期させるようにお勧めします。新しいクライアントまたは Essbase ブリッジを使用して、古いサーバーと接続することはできません。

この問題を訂正するには、Essbase Client Library Utility を実行します。ChangeEssbase.bat バッチ・ファイル、または ChangeEssbase.sh が、`alphablox_dir/bin` にあります。詳細は「管理者用ガイド」を参照してください。

例外が検出されない

DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase データ・ソースに接続するときに `com.alphablox.util.NotFoundException` が検出された場合、多くの場合、エラーは以下に示す 2 つのいずれかになります。

- 接続不可: `com.alphablox.util.NotFoundException: java.library.path に EssbaseNative がありません (Unable to connect: com.alphablox.util.NotFoundException: no EssbaseNative in java.library.path)`
- 接続不可: `com.alphablox.util.NotFoundException: ...¥tools¥essbase¥65¥EssbaseNative.dll (Unable to connect: com.alphablox.util.NotFoundException: ...¥tools¥essbase¥65¥EssbaseNative.dll)`

java.library.path に EssbaseNative がありません (No EssbaseNative in java.library.path)

これは、DB2 Alphablox が `EssbaseNative.dll` または `libEssbaseNative.so` ファイルを検出できないために生じます。特定の Essbase ブリッジのあるディレクトリが `PATH` 環境変数に入っていることを確認してください。

従属のライブラリーを検出できない

これは、DB2 Alphablox が `EssbaseNative.dll` または `libEssbaseNative.so` ファイルを検出したものの、Essbase Runtime クライアント・ライブラリーを検出できない

い場合に発生します。これは、ARBORPATH 環境変数が正しく設定されていないと
いうことを示しています。DB2 Alphablox のインストール済み環境の bin ディレク
トリーに入っている、essbasesetup.bat または essbasesetup.sh ファイルが、
ARBORPATH 変数を正しいディレクトリーに設定しているかどうかを確認してくだ
さい。

プロバイダーが見つかりません (Provider cannot be found)

Microsoft® Analysis Services (MSAS) データ・ソースに接続するときに以下の例外が
生じる場合、問題は複数の異なる原因によるものかもしれません。

```
javax.servlet.ServletException: Provider cannot be found. It may not be properly  
installed. [NotAuthorizedException, Thrown in: ODBOBridge.connect(Native Method  
com.alphablox.util.NotAuthorizedException: Provider cannot be found.  
It may not be properly installed.
```

以下に示す原因は、通常は環境によるものです。

MSAS .DLL ファイルの競合

「プロバイダーが見つかりません (Provider cannot be found)」というメッセージの
最も一般的な原因は、DB2 Alphablox が Windows® 2000 システムで稼動してい
て、このシステムに複数の Microsoft アプリケーションがインストールされてお
り、各アプリケーションが異なるバージョンの Pivot Table Service または
Microsoft Data Access Components (MDAC) .DLL ファイルを使用しているとい
うことです。例えば、システムに DB2 Alphablox、Microsoft Office、MSAS サンプル・
アプリケーションがインストールされており、それぞれが Pivot Table Services また
は MDAC .DLL ファイルをインストールするなら、このようなことが生じ得ます。

この問題の解決策は、DB2 Alphablox ホスト・システムを Windows 2000 SP3 にア
ップグレードすることです。

注: その後でアプリケーションをインストール、再インストール、またはアンイン
ストールして、そのアプリケーションが Pivot Table Service または MDAC
.DLL ファイルをインストールするなら、この問題が再び生じることが予想され
ます。このような場合は、Windows 2000 SP3 を再適用する必要があります。

管理者特権を使用せずにローカル・ユーザーとして接続

競合の別の原因は、MSAS と DB2 Alphablox が同一マシンにインストールされて
おり、接続ユーザーが MSAS 管理者グループのユーザーではなく、ローカル・ユ
ーザーであるということです。このメッセージは、一般的に、Microsoft Pivot Table
Services の DLL ファイルにハングまたはロックされたスレッドがあるという状況
を示しています。

このような場合、セッション内で 2 番目の Blox コンポーネントを接続する
ときに、このような状況が毎回生じることになります。通常、DB2 Alphablox
を再始動するとこの問題は解決します。DB2 Alphablox が作成したすべてのス
レッドが強制終了されるからです。

接続中のユーザーの検証

Microsoft OLAP Server への接続についての詳細情報が知りたい場合は、OLAP Server を設定して、Windows NT® イベント・ログにすべての接続または切断イベントを記録することができます。デフォルトでは、これらのイベントは記録されません。イベントを記録する場合は、

```
HKeyLocalMachine\SOFTWARE\Microsoft\OLAP Server\CurrentVersion\AuditEvents
```

にあるレジストリー項目へ移動します。インストール・プログラムで設定されるデフォルト値は 0xd (13) です。この項目は、どのイベントが OLAP Server によって Windows NT イベント・ログに記録されるかを制御します。以下に示すとおり、各ビットはそれぞれ 1 つのタイプのイベントを制御します。

- 0x1 - サーバーの開始または停止
- 0x2 - 接続または切断
- 0x4 - セキュリティー・イベント
- 0x8 - リレーショナル・データベース・エラー・メッセージ

したがって、ユーザーの接続および切断のイベントを記録するためには、この値を 0xf (15) に変更する必要があります。

必要な権限をクライアントが保持していません (A required privilege is not held by the client)

これは Microsoft Analysis Services および SAP BW データ・ソースに関連しています。完全なエラー・メッセージは、以下のとおりです: 「接続不可: com.alphablox.util.NotAuthorizedException: 必要な権限をクライアントが保持していません。(Unable to connect: com.alphablox.util.NotAuthorizedException: A required privilege is not held by the client.)」

これは、DB2 Alphablox を始動するユーザーが、DB2 Alphablox のインストールされているマシン上で「オペレーティング システムの一部として機能」特権を持っていないことが原因で生じる可能性があります。SAP BW では、必要な SAP クライアントがインストールされていない場合や、SAP に指定されたユーザー名およびパスワードが正しくない場合と同じエラーが生じます。SAP のユーザー名およびパスワードには、大/小文字の区別があります。

ログオン失敗: ユーザー名を認識できないか、またはパスワードが間違っています (Logon failure: unknown user name or bad password)

これは Microsoft Analysis Services (MSAS) データ・ソースに関連しています。完全なエラー・メッセージは、以下のとおりです。「接続不可: com.alphablox.util.NotAuthorizedException: ODBO 認証エラー。ログオン失敗: ユーザー名を認識できないか、またはパスワードが間違っています。(Unable to connect: com.alphablox.util.NotAuthorizedException: ODBO authentication error. Logon failure: unknown user name or bad password.)」

この問題が生じる場合、対応する MSAS ユーザーが MSAS データベースに存在しているかどうかを確認してください。DB2 Alphablox がデータ・ソースにアクセス

する際に使用するユーザー名は、ドメイン・ユーザー、あるいは DB2 Alphablox がインストールされているマシンのドメインのユーザーである必要があります。

java.library.path に ODBOBridge がありません (No ODBOBridge in java.library.path)

これは Microsoft Analysis Services データ・ソースに関連しています。完全なエラー・メッセージは、以下のとおりです。「java.lang.UnsatisfiedLinkError: java.library.path に ODBOBridge がありません。(java.lang.UnsatisfiedLinkError: no ODBOBridge in java.library.path.)」

DB2 Alphablox は、ODBOBridge.dll ファイルを検出できません。ODBOBridge.dll ファイルは、通常 *alphablox_dir/bin/* ディレクトリーにあります。PATH 環境変数に *alphablox_dir/bin/* ディレクトリーが入っていることを確認してください。

第 3 章 サーバーのトラブルシューティング

このセクションでは、一般的なサーバーの問題、疑われる原因、および問題の対処方法について説明しています。

DB2 Alphablox をサービスとして開始する場合に生じるエラー 1100003

Hyperion Essbase の資料によると、エラー 110003 は「ESSG_ERR_INVALIDHANDLE」を指しています。これは、通常 Essbase .dll ファイルに関する問題です。DB2 Alphablox の問題の最も一般的な原因は、ARBORPATH 環境変数が設定されていないこと、または、DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase クライアント・ライブラリーが間違ったバージョンを指していることです。

DB2 Alphablox で使用されている DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase ライブラリーが、DB2 Alphablox DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase ブリッジと同じバージョンであるかどうか確認してください。ARBORPATH 環境変数により指定された Essbase ライブラリーも、wrapper.properties ファイルにあるものと完全に一致している必要があります。できれば、これを、DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase Server とも一致させます。一致させることができない場合、これは常に、DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase サーバーより下位のバージョンでなければなりません。

問題を訂正するには、Essbase Client Library Utility を実行します。
`alphablox_dir/bin` ディレクトリーに移動し、`ChangeEssbase.bat` バッチ・ファイルまたは `ChangeEssbase.sh` シェル・スクリプトを実行します。詳細は「管理者用ガイド」を参照してください。

サーバーの異常終了

WebSphere Application Server v5.1.1 で DB2 Alphablox を実行していて、アプリケーション・サーバーが自然に停止してしまった場合は、スレッド・ダンプを記録したファイルを探してください。JVM はこのファイルを、`javacore[number].txt` のような名前で作品のディレクトリー構造内に作成します。コア・ダンプの使用と解釈の方法については、12 ページの『スレッド・ダンプの使用』を参照してください。

サーバーのハング

WebSphere Application Server v5.1.1 を使用していて、サーバーが停止した場合、強制的にアプリケーションにスレッド・ダンプ (または `javacore`) を作成させることができます。

1. `wsadmin` コマンド・プロンプトを使用して、問題のアプリケーション・サーバーへのハンドルを入手してください。

```
wsadmin>set jvm [AdminControl completeObjectName type=JVM,process=server1,*]
```

- スレッド・ダンプを生成します。

```
wsadmin>$AdminControl invoke $jvm dumpThreads
```

- インストール・ルート・ディレクトリーで `javacore.date.time.id.txt` と類似の名前の出力ファイルを探します。

コア・ダンプの使用と解釈の方法については、『スレッド・ダンプの使用』を参照してください。

スレッド・ダンプの使用

WebSphere Application Server の実行中にサーバーの異常終了または停止が生じた場合、スレッド・ダンプを入手すると問題の検出に役立ちます。WebSphere Application Server v5.1.1 を使用している場合、詳細は、11 ページの『サーバーの異常終了』および 11 ページの『サーバーのハング』を参照してください。

スレッド・ダンプを入手したら、これを DB2 Alphablox サポートに送ることもできますし、ブラウズして手掛かりを探すこともできます。

- JVM が閉じるときにスレッド・ダンプを作成した場合 (つまり手動で強制したスレッド・ダンプでない場合)、「error」または「exception information」というストリングがファイルの最初にある可能性があります。これらのストリングは、アプリケーション・サーバーを停止させたスレッドを示しています。
- スレッド・ダンプには、プロセス内の各スレッドのスナップショットが入っています。これは「Full thread dump」というラベルの付いたセクションで始まります。
- 説明に「state:R」が含まれているスレッドを探します。このようなスレッドは、ダンプが強制されたとき、あるいはプロセスが終了したときに、アクティブで実行中のスレッドです。
- Java アプリケーション・コードのソースの場所が同じである、複数のスレッドを探します。場所が同じ複数のスレッドがある場合、それはデッドロック状態 (複数のスレッドがモニターを待機している) または無限ループを示している可能性があります。これは、問題のあるアプリケーション・コードを識別する上で役に立ちます。

第 4 章 サポート

DB2 Alphablox インフォメーション・センターは、PDF 形式でもご利用可能です。DB2 Alphablox 内からインフォメーション・センターにアクセスするには、「ヘルプ」メニューまたは DB2 Alphablox ホーム・ページの任意のヘルプ・ページから、「インフォメーション・センター」リンクを選択します。最新の情報については、<http://www.ibm.com/software/data/db2/alphablox/library.html> にある DB2 Alphablox ライブラリー・ページを参照してください。このページには、インフォメーション・センター、PDF ファイル、および Javadoc へのリンクがあります。API 変更リスト (これも Javadoc 形式) には、前回のリリース以降、新しく追加、変更された、推奨されなくなった、または除去された API についての詳細が記載されています。

IBM への連絡

技術的な問題が発生した場合は、DB2 Alphablox カスタマー・サポートに連絡する前に、製品資料を確認し、該当する処置を行ってください。本書では、DB2 Alphablox カスタマー・サポートからの援助を受けるためにどんな情報を収集したらよいかを示しています。

詳しい情報や製品のご注文については、お近くの営業所の IBM 担当員までご連絡ください。

製品情報

DB2 Alphablox の情報へのリンクがあります。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/udb>

DB2 Universal Database™ の Web ページには、ニュース、製品説明、教育スケジュールなどの現行情報があります。

<http://www.elink.ibm.com/>

注: 一部の国では、IBM の正規販売店は、IBM サポート・センターではなく、正規販売店向けのサポート部門に連絡することになっています。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation, J46A/G4, 555 Bailey Avenue, San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

DB2
IBM

DB2 OLAP Server
WebSphere

DB2 Universal Database

Alphablox および Blox は、Alphablox Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

トラブルシューティング (続き)

データ接続 7

Blox デバッグ・タグ 5

[ハ行]

ブラウザー

セッション、強制終了 2

[ア行]

エラー

一般的な Blox タグ・エラー 2

タイプ、JSP ファイルでの 1

認識されないコマンド 10075

(unrecognized command 10075) 7

プロバイダーが見つかりません

(Provider cannot be found) 8

NotAuthorizedException 9

UnsatisfiedLinkError 10

エラー処理

カスタム・エラー・ページ 1

[カ行]

キャッシュ

サーバー、クリア 4

サーバー、ロケーション 4

[サ行]

サーバー

トラブルシューティング 11

サーバー・エラー

エラー 1100003 11

サーバーの異常終了 11

サーバーのハング 11

スレッド・ダンプの使用 12

セッション

ブラウザー・セッションの強制終了 2

[タ行]

タグ

一般的なエラー 2

有効範囲 2

Blox タグの動作 2

デバッグ、

アプリケーション 1

トラブルシューティング 7

アプリケーション 1

サーバー 11

サーバー・コンソールの使用 6



プログラム番号: 5724-L14

Printed in Japan

GD88-6693-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12